

母性看護学

1. 考え方

母性看護の対象は、妊産褥婦とその子どもだけでなく、全てのライフステージにある女性である。また女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、母子をとりまく家族も対象であり、社会の中に存在・生活し、成長・発達している。その対象を取り巻く社会において、それぞれの生き方や役割の多様性、少子化、生殖補助医療技術の進歩・発展とそれに伴う生命誕生に関わる多様の倫理観、母子をめぐる生活環境の著しい変化が認められる。時代における変化は、女性を取り巻く環境として健康に影響を与え、女性の現在の健康は次世代の健康にも影響を及ぼす。そのため、対象をとりまく環境や社会のニーズに敏感になり、女性のライフステージに応じた変化を捉え、女性の一生を通じて健康の保持・増進と QOL の向上を図ることが求められる。

したがって、人間のセクシャリティの発達と母性の発達、リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖の健康/権利）を基盤とし、女性が健やかに一生を過ごせるように対象の個別性に応じた支援を行うために必要な知識・技術・態度を養うことを目指す。また、また学習を通して学生自身の母性性・父性性や生命に対する自らの考えを深められ、自己の役割や健康について考えられる機会としたい。

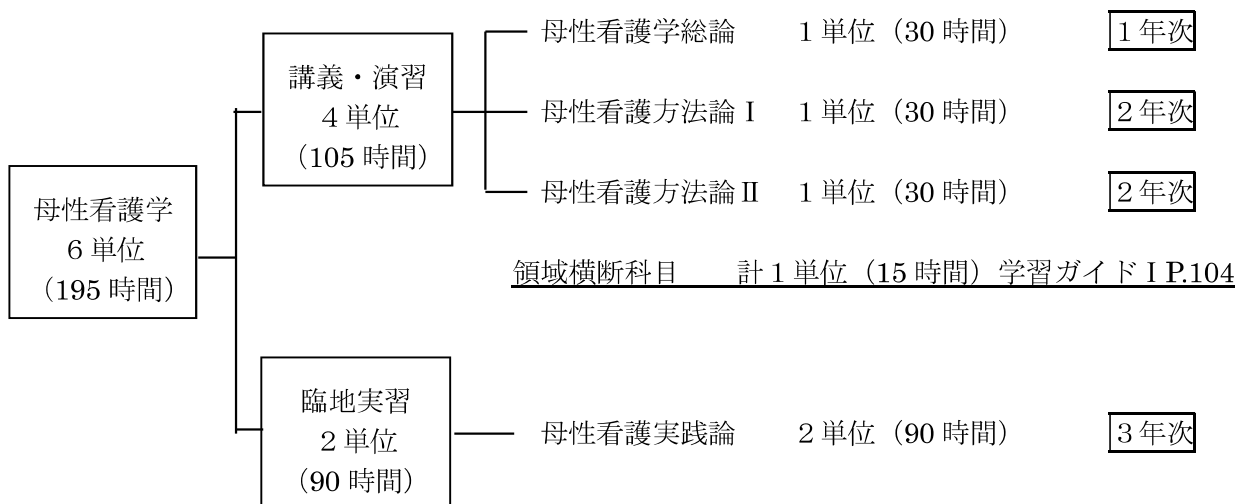
2. 目的

母性の特性を理解し、各ライフステージの対象に合った健やかな生活を送るために必要な看護の基本的知識、技術、態度を養う。

3. 目標

- 1) 母性の概念とその特性を学び、母性看護の役割について考える。
- 2) 女性の性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）についての認識を深め、表現する。
- 3) 母性看護における倫理・医療安全について考察する。
- 4) ライフステージ各期にある対象の特性から、母性看護における健康問題と看護を考える。
- 5) 周産期における母子および父親、家族に対して基礎的な看護を実践する。
- 6) 生命の尊さに気づき、自己の看護観を深める。

4. 構成



学科目 (単元)	母性看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	女性の生涯を通しての健康と、女性の特質とされる「母性」の健康について学ぶ。 女性・男性の身体的・機能的・心理社会的な発達を基盤に、女性の健康についてあらゆる方向から考えられるよう基礎的知識を学習する。						
到達目標	1. 母性の身体的特性、心理・社会的特性を述べる 2. セクシュアリティの発達と課題について知り、その概念と特質を述べる 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義を学び、4つの基本的要素を挙げる 4. 母子保健の現状と課題を知り、看護者の役割について考え意見交換する 5. 母子保健に関する主な組織と法律および関連する施策と行われている支援の内容を挙げる 6. 子宮・卵巣の周期的変化による月経のしくみと、妊娠の成立のメカニズムを説明する 7. 女性のライフステージ各期における看護について以下の要点を学び、述べる (身体的特徴、心理・社会的特徴、主要な健康問題、看護師の役割と必要な援助) 8. リプロダクティブヘルスケアについて現代女性を取り巻く環境と健康問題の関連を考える 9. 母性看護における倫理について考え、意見交換する 10. 自己の意見を伝え、他者の意見を傾聴し、学び合う姿勢を身につける						
授業計画	1. 母性看護の基盤となる概念① 母性とは 親になること 2. 母性看護の基盤となる概念② 母子関係の形成 家族の機能と発達 3. 母性看護の基盤となる概念③ ジェンダーとセクシュアリティ 4. 母性看護の基盤となる概念④ リプロダクティブヘルス/ライツ 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 母性看護の歴史的変遷と現状 5. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 母性看護の対象を取り巻く環境と統計 6. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状③ 母性看護の対象に関する法律 7. 母性看護の対象理解① 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化・月経周期・妊娠の成立と性分化 8～10. 女性のライフステージ各期における看護 : 思春期、成熟期、更年期・老年期の女性の健康と看護 11. 母性看護の対象理解② 家族の発達段階と家族看護 性感染症と女性の健康 12～13. リプロダクティブヘルスケア : 家族計画 性感染症 HIV 人工妊娠中絶 喫煙 性暴力 児童虐待 国際化社会 14. まとめ 母性看護に必要な技術 母性看護における倫理 母性看護のあり方 15. 学習時間あり・単位認定試験						
方法教育	協同学習を取り入れた講義およびグループワーク						
履修上の助言	母性について理解が深められるように、また人間の性と生殖 (sex、ジェンダー、セクシュアリティ) について、対象理解を基盤に考察をしていきます。 さらに、周産期に限らず「女性の健康」という視点でも講義を行います。 自己の意見を伝え、他者の意見を傾聴し、学びあう姿勢を持って臨んでください。						
テキスト・参考書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 参考書 ナーシンググラフィカ 母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 ゲイナ出版						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	母性看護方法論 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期
目的	妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と経過について学習し、正常経過をたどる妊婦、産婦、褥婦と新生児およびその家族に対する看護を実践するための基礎知識を学ぶ。 母子に対する安全・安楽な技術を提供するために必要な看護技術を、演習での実践を通して修得する。						
到達 目標	・妊娠・分娩・産褥・新生児の生理およびその経過を説明する。 ・正常経過をたどる妊産婦および胎児とその家族への看護を説明する。 ・褥婦と新生児およびその家族への看護（正常の判断・支援内容と方法）を説明する。 ・母子に対して、安全・安楽な技術を提供するために必要な看護技術を実践する。						
授業 計画	1. 妊娠の生理 (妊娠の成立、母体の生理的变化、胎児の発育と生理) 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊娠期にある人への看護① (妊娠初期～妊娠後期にある妊婦と家族への看護) 4. 妊娠期にある人への看護② (日常生活とセルフケア、マイナートラブル、親になるための準備教育) 5. 分娩の生理 (分娩3要素、分娩の機序、分娩の経過) 6. 分娩期のアセスメントと看護 7. 新生児の生理 (新生児の身体的特徴、新生児の機能および子宮外適応現象) 8. 新生児のアセスメント 9. 産褥期の経過 (褥婦の身体的変化・心理・社会的変化) 10. 褥婦のアセスメント (産褥経過の診断と健康状態のアセスメント) 11-12. 産褥期・新生児期にある人への看護 ① 退行性変化・進行性変化の観察と援助、母乳育児支援など ② 母親役割獲得を促す援助、家族関係再構築への看護など ③ 新生児の看護 (出生直後～退院後までの経過観察と看護) ④ 退院後の褥婦への看護 13-14. 母性看護技術演習 ① 妊娠期の看護に必要な看護技術 ② 産褥期・新生児期に必要な看護技術 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育 方法	協同学習を取り入れた講義およびグループワーク・演習						
履 修 上 の 助 言	イメージがしやすいように、視覚教材、モデル人形等を用いて授業・演習を行ないます。						
テ キ ス ト 参 考 書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディアカ 参考書 授業内で提示						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	母性看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	後期
目的	妊娠・分娩・産褥・新生児期における異常経過と看護の基礎的知識を学び、正常から逸脱した妊産褥婦とその家族の気持ちを考え、対象に合わせた看護について学ぶ。 また、紙上事例を用いて、褥婦と新生児の看護過程を展開し、産褥期・新生児期のアセスメントの視点を理解する。						
到達目標	・正常から逸脱した妊娠・分娩・産褥・新生児の要因を説明する。 ・正常から逸脱した妊産褥婦とその家族への看護を説明する。 ・正常から逸脱した妊産褥婦とその家族への配慮について考えを述べる。 ・不妊の原因・治療を知り、不妊治療を受けるカップルの心理社会的な特徴を述べる。 ・紙上事例により褥婦と新生児の看護過程を展開し、産褥期・新生児期のアセスメントの視点を説明する。 ・母性看護の対象をイメージし、個別性に応じたケアを提供できるための自己課題を明確にする。						
授業計画	1. ハイリスク妊娠の要因と看護 2. 妊娠中に合併する全身疾患の影響と看護 糖尿病、心疾患、精神障害、子宮筋腫 妊娠中に注意すべき感染症の母子への影響 3. 妊娠中に起こりうる正常からの逸脱と看護 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、流産・早産の看護、不妊の看護 4-5. 分娩中に起こりうる正常からの逸脱と看護 分娩遷延のリスクと看護、胎児機能不全の要因と看護、帝王切開術を受ける母子の看護 6. 産褥中に起こりうる正常からの逸脱と看護 子宮復古不全、産褥期の精神障害、産褥熱、産褥血栓症の特徴と予防方法 7. 新生児期に起こりうる正常からの逸脱と看護 頭部軟骨組織損傷、新生児・乳児ビタミンK 欠乏性出血、新生児仮死の治療と看護 低出生体重児の看護 高ビリルビン血症のリスクと看護 8-14. 産褥期の紙上事例を使用した褥婦と新生児の看護過程の展開 (1) 事例の理解とフェイスシートの活用 (2) 妊娠期・分娩期の母子の経過から情報を整理、1 日目のアセスメント・計画立案 (3) 産褥期の経過から情報を整理、3 日目のアセスメント・計画立案 (4) 発表と学びの共有① (5) 産褥期・新生児期の対象への援助の実施（演習） (6) 母子の経過から情報を整理、心理社会面のアセスメント (7) 発表と学びの共有②・まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・グループワーク 看護過程の展開では協働学習の実践						
履修上の助言	病態治療論Ⅶ、母性看護方法論Ⅰの学習を踏まえての履修が効果的です。 妊娠、分娩、産褥および新生児の正常な経過について、自己学習し履修することを勧めます。 看護過程は、母性看護実践論で使用する記録用紙を用いて展開します。授業資料や参考図書を活用し学習をすすめましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ・看護技術論Ⅱ 単位修得 母性看護学総論 単位修得						
テキスト 参考書	系統看護学講座 母性看護学各論 写真でわかる母性看護技術アドバンス 参考書 母性看護学1 妊娠・分娩 母性看護学2 産褥・新生児 新看護観察のキーポイント 母性Ⅰ、Ⅱ 他：病態治療論Ⅶ、母性看護総論、母性看護方法論Ⅰで提示した参考書					医学書院 インターメディカ 医歯薬出版 医歯薬出版 中央法規	
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	母性看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2 単位 90 時間	3 年	全期
目的	周産期にある母子及び家族の特性を理解し、母子の身体的、心理・社会的変化を捉えながら母子の健康を維持・促進するための援助を考え、実践する基礎的能力を養う。						
到達目標	・妊娠期・分娩期の情報をふまえて予測し、母子の身体的側面、心理・社会的側面の情報を収集し分類する。 ・母子の身体的、心理・社会的変化を捉えながら、母子への看護の必要性を判断し、適切な看護の実践・評価を行う。 ・母子関係の形成と発展、親役割取得過程への支援を考える。 ・生命に対する尊厳や家族の絆について自己の考えを深める。 ・周産期における継続看護の必要性について考える。						
授業計画	1 実習時間45分 1 週目：学内にて紙上事例の展開・実施。 2 週目以降：臨地実習 受け持ち母子の看護技術（褥婦、新生児の観察、乳房ケア・授乳介助、沐浴・ドライテクニック等）を見学後、一緒に実施する。 受け持ち母子の看護過程（看護介入の計画・実践・評価）の展開を行なう。 集団指導（母親学級・両親学級など）の見学。分娩の立会い。 必要に応じて受け持ち母子に必要な保健指導を考え、指導案の立案・実施を行なう。 産科外来・助産師外来にて、妊婦健診・保健指導等について実際に学ぶ。 最終日：「学びと気づき」の発表・評価面接						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護技術に対して、安全を最優先に考え、安楽な技術提供ができるよう準備を整えておいてください。 病態治療論Ⅶ、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学総論の復習を計画的に行い、妊娠、分娩、産褥および新生児の正常な経過について、学習ノートを活用して履修することを勧めます。						
テキスト 参考書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論 写真でわかる母性看護技術アドバンス 参考図書 母性看護方法論Ⅰ、Ⅱシラバスを参照 医学書院 インターメディカ						
評価方法	実習評価表 参照						

精神看護学

1. 考え方

現代社会においては、相次ぐ大規模災害や感染症により日常の生活が脅かされている。また複雑多様化した現代社会のゆがみとして、人々がストレスを引き起こしやすく、心の健康に障害を抱える人が増えている。したがって、2011年には地域医療の基本方針となる医療計画で重点的に取り組む課題として、新たに「精神疾患」が加えられた。このことから心の健康問題は、重要な課題と言える。

人は精神障害の有無に関わらず、その人らしく生きていく権利があり、全ての人に回復と成長の可能性がある。精神看護の役割は、人が自己実現へと向かうプロセスを支えるために、精神的・身体的・社会的な援助を提供することである。

医療の場においては、高度医療が求められ、精神科医療を取り巻く環境も急速に変化し、多くの精神科病院が急性期治療中心となり、入院期間は確実に短縮している。したがってこれからの精神看護は、入院治療から地域生活の支援に至るまで、幅広く求められることになる。

これらのことを踏まえ、精神看護学では、保健・医療・福祉の統合を視野に入れ、心の健康の保持増進、健康障害時の回復、そして社会復帰に向けての支援について考え、学ぶ機会としたい。

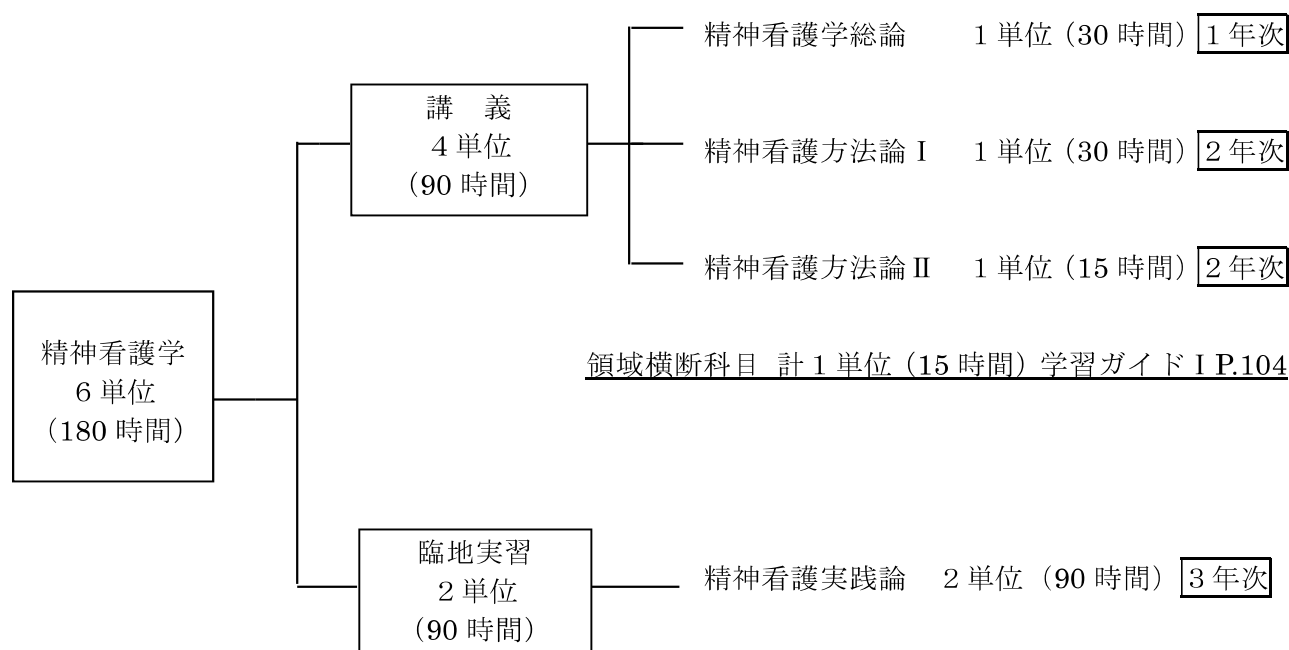
2. 目的

あらゆるライフステージにある人およびその家族を対象として、心の側面から健康の保持増進、健康障害から社会復帰までの基礎的看護について学ぶ。あわせて、対象者との人間関係を通して自己を洞察する力を養う。

3. 目標

- 1) 心の働き及び心の発達、は、様々な環境との相互作用であることを理解する。
- 2) 心の健康問題の発生のプロセスと心の健康の保持増進や回復のための看護活動について理解する。
- 3) 精神障害者およびその家族の看護を実践するための基礎的な知識技術を習得する。
- 4) 対象者との人間関係を通して自己を振り返り、自己洞察をする力を養う。
- 5) 精神障害者の処遇の歴史を理解し、ノーマライゼーションについて考える。

4. 構成



学科目 (単元)	精神看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心病人を理解するための基礎知識とともに保健・医療・福祉の視点から、社会の偏見の中で暮らしている精神に障害のある人に対する看護の基盤を築く。また、ライフサイクルや社会の変化におけるメンタルヘルスについて自ら調べ、考え、発表し主体的学習姿勢を培うと共に精神障害についての理解を深める。						
到達目標	・人間の心のはたらきを知り、自身の心の健康を考えられる。 ・自身の防衛機制(適応機制)行動やストレスに対する対処行動を日常の経験から照らし合せて考え説明する。 ・ライフサイクルにおける危機と健康問題、社会の変化とメンタルヘルスとの関連性を調べ発表する。 ・精神医療の歴史的変遷と現状から、社会の中の精神障害者に対する人権と倫理について自己の意見を述べる。 ・精神障害者の生きにくさや思いを感じとり、精神領域における医療従事者としての役割や精神看護の役割について自己の考えを述べる。 ・看護師自身の労働上のメンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性を理解し、その対処方法を述べる。						
授業計画	1. 精神看護学の位置づけ 精神（こころ）の健康とは 心のしくみと人格の発達 2・3. 人間の心のはたらき：心の成長発達と危機・防衛機制 4. ストレスと対処行動、危機介入 5. ライフサイクルにおける危機と健康問題、社会の変化とメンタルヘルス 「乳児期・乳幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期・中年期、老年期」 「アルコール、薬物依存、自殺と予防、PTSD、心身症、虐待、不登校、いじめ」 6. ライフサイクルにおける危機と健康問題、社会の変化とメンタルヘルス (グループワーク発表) 7. 心の健康に関する普及啓発 8. 精神医療看護の歴史および法と制度 9. 精神保健の動向、倫理と人権、ノーマライゼーション 10. 精神障害者の理解：観察、ケアの原則・方法 11. 精神障害者の理解 (DVD 鑑賞) 12. 精神障害者の理解 (DVD 鑑賞) 13. 精神看護の機能と役割 精神科医療チーム・リエゾン精神看護 14. 看護師のメンタルヘルス 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義およびグループワーク、DVD鑑賞						
履修上の助言	授業には積極的に参加し、疑問に感じたことは自分で調べ、考える習慣をつけてほしい。心の成長発達や環境については、社会状況とともに新聞やメディアなどに関心を持ち、学習に望んでほしい。グループワークでは、何より参加が基本です。他者の意見を聞き、自分の意見も述べ、グループとして協力してほしい。						
テキスト・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院						
評価方法	筆記試験、レポート (学習課題) *授業概要参照						

学科目 (単元)	精神看護方法論Ⅰ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	全期
目的	心病む人が体験している世界を知ることができ、主な疾患・症状、検査・治療、自立へ向けての援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を学ぶ。社会で暮らすためには、心病む人の健康の維持や生活能力の改善、再発予防が重要となる。そのためには、家族・精神医療保険福祉や地域活動の関係者、雇用や教育、行政について理解する必要がある。						
到達目標	・主な精神疾患の回復過程に応じた看護と援助方法について説明する。 ・主な精神疾患に関する治療・検査を説明する。 ・主な精神疾患及び症状のある人の看護について説明する。						
授業計画	【回復過程に応じた看護と援助方法：14 時間】 1. 統合失調症の経過に沿った看護 2. 統合失調症の経過に沿った看護 3. 統合失調症の経過に沿った家族支援 4. 地域リハビリテーション・訪問看護 5. 地域における精神看護（実践事例） 6. 精神障害者の地域における支援 7. 精神障害者の地域における支援の実際 【治療・検査・精神疾患・症状を持つ人の看護：8 時間】 1. 入院治療：入院の意味・治療的環境（精神療法・行動療法・環境療法） 2. 入院中の安全：精神科における人権とリスクマネジメント（自殺・離院・誤嚥・暴力・院内感染など）、緊急時の対処方法 3. 精神科の治療と身体ケア （検査・薬物療法・電気けいれん療法・作業療法・レクリエーション療法・集団療法） 4. 神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害の看護 （恐怖症性不安障害・強迫性障害・適応障害・解離性障害・身体表現性障害） 【精神疾患・症状を持つ人の看護：6 時間】 1. 気分【感情】障害【双極性障害及び関連障害群、抑うつ障害群】の看護 2. 各障害の看護①（摂食障害・睡眠障害・性機能不全・性同一性障害・パーソナリティ障害・てんかん・神経発達障害群） 3. 各障害の看護②【依存症の看護】（アルコール依存症・薬物依存症ほか） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義及びグループワーク						
履修上の助言	授業には予習・復習をしたうえで臨んでください。疑問に感じたことは自分で調べ、考える習慣をつけましょう。また授業で理解できなかったことは、その時に積極的に質問や確認を行ってください。						
参考書・テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座		精神看護の基礎 精神看護の展開		医学書院 医学書院		
評価方法	筆記試験、レポート（学習課題） ＊授業概要参照						

学科目 (単元)	精神看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	紙上事例を用いてオレム看護理論による看護過程を展開する中で、個人およびグループワークを通して、精神障害者のセルフケアの査定とアセスメントの視点についての学びを深める。						
到達目標	・事例を通し紙面上で情報収集をする。 ・情報を関連付けてアセスメントする。 ・分析した結果よりセルフケアを5段階で査定する。 ・分析した結果より問題を明確化する。 ・明確となった問題より必要な看護を導く。 ・事例による看護過程の展開を通し精神障害者に関心を寄せ理解する。 ・項目のセルフケア要素に沿って自ら調べ、考えたことをグループメンバーへ伝える。						
授業計画	セルフケア理論を用いて、グループで患者理解と看護の為に必要な学習を考え、看護過程を展開する。 1. セルフケア理論の概要、事例紹介 2. 精神障害を持つ人の事例展開：患者像・全体像（ワーク・発表） 3. 精神障害を持つ人の事例展開：個人衛生と体温（ワーク・発表） 4. 精神障害を持つ人の事例展開：活動と休息（ワーク・発表） 5. 精神障害を持つ人の事例展開：空気・水・食物、排泄（ワーク・発表） 6. 精神障害を持つ人の事例展開：孤独とつきあい（ワーク・発表） 7. 精神障害を持つ人の事例展開：安全を保つ能力（ワーク・発表）・経過記録 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義およびグループワーク						
履修上の助言	自ら学ぼうという意志のもとに、看護過程を展開する上で必要な文献・資料を準備してください。既習した知識や文献・資料を十分に活用し課題学習に取り組んでください。 グループワークは、課題学習を基に活発に意見交換してください。また他者の意見や考えを理解し、学びを深めるとともに自身の考えや意見をアサーティブに伝えてください。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 精神看護学総論 単位修得						
参考文献	精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 医歯薬出版 系統看護学講座 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院						
評価方法	筆記試験、レポート（学習課題） ＊授業概要参照						

学科目 (単元)	精神看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90 時間	3 年	全期
目 的	精神障害者との関わりから対象理解を深め、看護の実践を通して精神看護の基礎を学ぶ。 また、その過程を通して自己洞察する能力を養う。						
到達 目標	・実習体験を通して精神障害者の理解を深める。 ・患者-看護師関係の相互作用の発展過程を分析し、治療的に関わる。 ・精神障害者のセルフケア能力を査定し、看護を実践する。 ・精神医療における看護の役割・機能・倫理的課題を考え表現する。 ・障害者総合支援法を理解し、精神障害者が地域のなかで自立して生活するためのサービスや援助について表現する。 ・依存症回復者の体験談から依存症者について理解を深めるとともに、その家族や看護師の役割を考え表現する。						
授業 計画	1 実習時間 45 分 精神科病棟実習（72 時間） 1. オリエンテーション 2. カルテ・対象との関係を築きながらの情報収集 3. プロセスレコード検討会 4. 患者像・全体像・セルフケアの査定・アセスメント発表 5. 援助計画に沿って援助の実施 6. まとめの会 地域社会復帰施設実習（18 時間） 1. オリエンテーション 2. 利用者との関り 3. カンファレンス						
教育 方法	臨地実習（病院、地域社会復帰施設） ・当事者の体験談 ・DVD事前学習						
履 修 上 の 助 言	対象に関心を寄せて自ら学ぼうという意志のもと積極的に関わってください。治療的コミュニケーション技術を活用しながら、個別的な看護を展開していきましょう。またプロセスレコードを通し自己洞察し、自己の傾向に気づくことが大切です。 必要な記録類などは指定された期日に提出してください。						
参 考 書 ト	精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 医歯薬出版 系統看護学講座 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院						
評価 方法	実習評価表 参照						

領域横断科目

1. 考え方

看護の対象は地域で暮らしている人であり、活躍する場は増えている。そのため、様々な発達段階、健康レベルの人を対象とし、その個々に応じた看護の提供が望まれる。看護実践に際しては同じ技術においても、対象の特性を踏まえて専門性の高い知識や技術を活用し、基本的技術を応用して実践する必要がある。

領域横断では、それまで発達段階別に学習していた知識・技術に関して、領域の枠を超えた視点を持ち、気づき、課題解決できる実践的な知識や技術の習得を目指している。

各領域では対象を絞り、その特性に応じた看護を学習しているため、領域横断では同じテーマの看護に関して対象ごとにどのような違いや共通点があるのか、看護の提供に際して、何をどのように配慮し、応用することが必要なのかに焦点を当て学習することで、より対象の特性や、基本と応用の違いが明確になる。看護の対象を包括性や継続性の観点で捉えた教育内容としている。

課題学習に自ら取り組み、発信し、実践したことを繰り返しリフレクションすることで、経験から学びを積み重ねることが可能になる主体的で実践型の教育を目指す。

さらに常に目的、目標を明確にし、専門的な理解を深め、多職種の中における看護職の役割を意識することで自身の看護観を育成し、臨床で活用できる実践型教育が行われるように構成している。

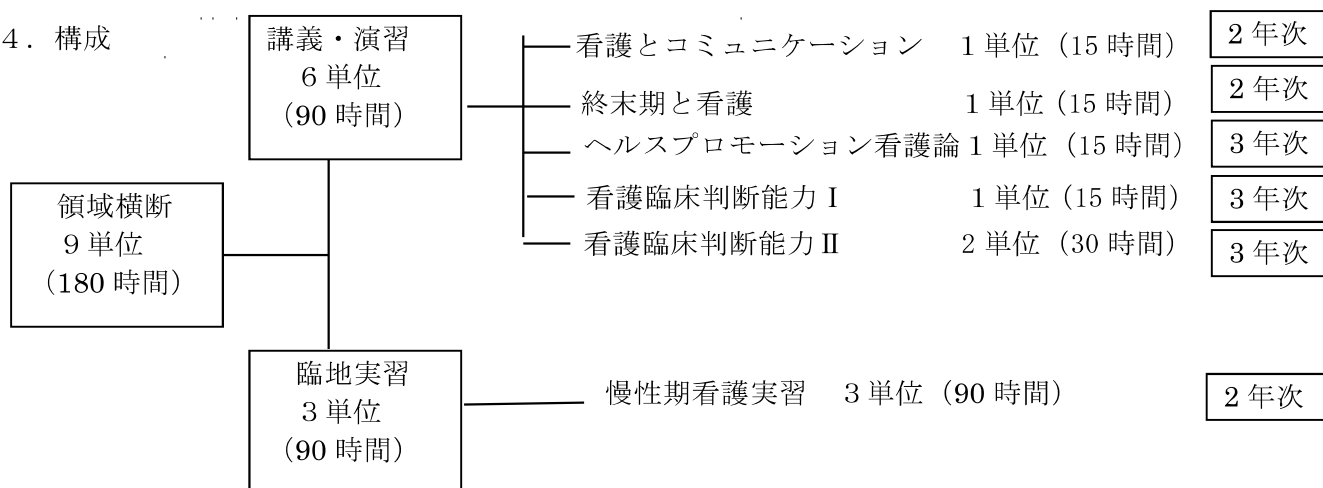
2. 目的

看護の対象を包括性、継続性の観点で捉え、知識やスキルを活用・応用して実践できる力を習得する。

3. 目標

- 1) 各ライフステージにある対象に対し、発達・状況に応じたコミュニケーションを考える。
- 2) 終末期における医療チーム（多職種連携）の中での看護師の役割について説明する。
- 3) ヘルスプロモーションの活動方法について、個人・家族・集団・地域それぞれを単位として理解する。
- 4) 対象の発達段階と健康状態に対する臨床判断のプロセスを実践する。
- 5) 対象の発達段階を踏まえ、セルフケア能力を高める援助を実践する。

4. 構成



5. 領域横断科目の単位数内訳（専門分野における単位配分）

科目名	単位	地域・在宅	成人	老年	小児	母性	精神	計
看護とコミュニケーション	1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.5	1
終末期と看護	1	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.3	1
ヘルスプロモーション看護論	1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.1	1
看護臨床判断能力Ⅰ	1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	1
看護臨床判断能力Ⅱ	2	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	2
小計	6	1	1	1	1	1	1	6
慢性期看護実習	3	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	3
合計	9	1	3	2	1	1	1	9

学科目 (単元)	看護とコミュニケーション	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	看護師に求められるコミュニケーションは、看護実践に欠かせない重要なスキルであり、また同時にチーム医療の一員として、看護師間や多職種との連携においても必要不可欠である。したがって知識だけではなく様々な対象や場面で実践できる技術として修得する必要がある。 またプロセスレコードを通し客観的に自分自身の言動や行動を振り返り洞察することを学ぶ。更に対象と看護者の相互作用過程を明らかにし、対象理解を深めることで看護場面に活用できるようにする。						
到達目標	・各ライフステージにある対象に対し、発達・状況に応じたコミュニケーションを考える。 ・コミュニケーション場面をプロセスレコードにより再構成し、客観的に的に洞察する。 ・各ライフステージにある対象とのコミュニケーションについて説明する。						
授業計画	1. ・看護とコミュニケーション：講義 (一般のコミュニケーションと医療におけるコミュニケーションの違い) ・プロセスレコードの意義と活用目的・方法 2・3. コミュニケーショントレーニング (ロールプレイ) 4. 自己を振り返る方法 (プロセスレコードの活用の実際) 5. 各ライフステージにある対象とのコミュニケーションの学びの共有 (発表) 6・7 〈治療的コミュニケーション〉 ・質問技法 ・傾聴・共感 8. 単位認定試験 (学習時間なし)						
授業方法	講義 グループワーク 演習						
履修上の言	授業には積極的に参加し、疑問に感じたことは自分で調べ考える習慣をつけてほしい。また自分の考えは主体的に述べるよう習慣づけてほしい。						
テキスト参考書	精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開						
評価方法	筆記試験・授業態度 (課題の取り組みやGW・演習の取り組み状況) により総合的に評価する。 *授業概要参照						
単位内訳	地域・在宅、老年、母性：各0.1単位、小児：0.2単位、精神0.5単位						

学科目 (単元)	終末期と看護	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	これからの日本は「多死社会」を迎えるとされ、看取りを行う場も多様化すると考えられている。このことから、看護職はあらゆる状況に応じ、最期までその人らしい人生を全うできるように支える役割を期待されている。生命を脅かす疾患による問題に直面しているあらゆる発達段階にある患者と家族に対して、痛みを始めとした身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛の緩和と予防のための基本的知識と考え方を学ぶ。対象や家族の意思を尊重した継続的なケアの実践につながる基礎的知識を学び、多様なニーズにこたえるための能力を養う機会とするとともに、死生観や看護観を育む機会とする。						
到達目標	・終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念を説明する。 ・終末期にある人の特徴（身体面・精神面・社会面）について説明する。 ・痛みをはじめとする主な症状、治療・看護について説明する。 ・主な精神症状とその治療・看護について説明する。 ・終末期の患者の家族が抱える問題と家族ケアについて説明する。 ・終末期における医療チーム（多職種連携）の中での看護師の役割について説明する。 ・療養方法や療養場所など、終末期の生き方・過ごし方について、その人の意思決定を支える看護援助について自己の考えを述べる。						
授業計画	1. その人らしい生き方（意思決定）を支えるケア 在宅で終末期を過ごす人と家族への看護 2. 終末期看護・緩和ケア・ホスピスケアの定義と歴史、制度、理念 病院（一般病棟・緩和ケア病棟・ホスピス）や施設で終末期を過ごす人と家族への看護 終末期にある人とその家族の特徴 3. 全人的苦痛（トータルペイン）・全人的ケア 身体的苦痛の緩和：WHO 方式 3 段階除痛ラダー、疼痛アセスメント、オピオイドによる疼痛緩和、身体的諸症状の緩和・精神的苦痛の緩和・霊的苦痛（スピリチュアルペイン）の緩和・社会的苦痛の緩和、臨死期の看護（看取り、エンゼルケア、遺族へのケア） 4. こどもの死と子どもを亡くす家族の看護 小児の発達段階による死の概念の変化、死への過程の違いによって起こる小児とその家族が抱える問題、終末期の小児を取り巻く人々への影響 5. 周産期に子どもを亡くす家族の看護 流産・死産・新生児死を体験した家族へのケア 6. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、エンド・オブ・ライフケア 7. 事例から考えるエンド・オブ・ライフケア 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義						
履修の助言	臨床薬理学、生命医療倫理、臨床心理学、看護学総論（成人・老年・母性・小児・在宅）と関連があります。苦痛症状の緩和や対象の心身の反応過程などの復習をして、講義に臨んでください。						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 成人看護学6 緩和ケア 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児看護学総論 系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論				メディカ出版 医学書院 医学書院		
評価方法	筆記試験						
単位内訳	地域・在宅：0.3 単位、成人：0.2 単位、老年：0.3 単位、小児：0.1 単位、母性：0.1 単位						

学科目 (単元)	ヘルスプロモーション 看護論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	小児期から老年期にある様々な発達段階、多様な状況にある対象に合った保健指導・健康教育を実践できるよう、基礎看護学で取得した保健指導技術を実践できる技術として習得する。 また、保健指導・健康教育を実施する自身の健康を保つための方法を学ぶ。						
到達目標	・ヘルスプロモーションの考え方を説明する。 ・ヘルスプロモーションの活動方法について、個人・家族・集団・地域それぞれを単位として理解する。 ・健康教育について理解し、看護職の役割について説明する。 ・健康づくり（保健指導・健康教育）を計画・作成、発表する。						
授業計画	1. ヘルスプロモーションの概念と動向 地域で暮らす人の生活と健康課題 ヘルスプロモーション活動の実際 看護職の役割 2. 看護者の健康 集団精神療法（WRAP） 3. 私たちの考える健康づくり 1 4. 私たちの考える健康づくり 2 5. 私たちの考える健康づくり 3 6. 7. 発表・まとめ 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義・演習 健康づくり（保健指導・健康教育）についてグループワーク						
履修上の助言	グループで指導案を作成し実際にプレゼンを行うため、自分の考えを持ち、主体的に意見を述べ、また他者の意見も聞きながら、メンバー同士で協力し合って進めて欲しい。 地域で暮らす人の生活を知り、人々が直面している健康問題・健康課題に関心を持ちながら授業に臨んで欲しい。						
参考書	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 行動変容を促す看護 医学書院 看護技術論XIで提示した資料						
評価方法	グループワークへの取り組みと発表 課題レポート 筆記試験						
単位内訳	地域・在宅、成人：各 0.2 単位、母性：0.3 単位、老年、小児、精神：各 0.1 単位						

学科目 (単元)	看護臨床判断能力 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	対象者の健康問題を把握するために必要な臨床判断能力であるフィジカルアセスメントについて学ぶ。専門領域毎の特徴を踏まえフィジカルイグザミネーションや問診による情報収集の方法及び、収集した情報の分析・判断について検討をする。多様な臨床現場の状況において臨床判断に繋げる学習とする。						
到達目標	・臨床判断能力とは何か、看護における意義を説明する。 ・身体状態を把握するための情報を、正しい技術で収集する。 ・フィジカルアセスメントで得られた身体的情報から正常・異常を判断する。 ・得られた情報に基づいて対象の身体状態を分析する。 ・分析した身体状態から対象に必要な看護の方向性を見出す。						
授業計画	1. 臨床判断能力とは 看護実践力の中でも臨床判断が必要な理由、プロセス、フィジカルアセスメント発達段階を踏まえたアセスメントの特徴を知り、事例検討に必要な準備を行う。 2. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW① 3. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW② 4. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW③ 5. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW④ 6. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW⑤ 7. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際 領域の GW⑥ 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義 演習 協同学習						
履修上の助言	看護技術論Ⅳ（フィジカルイグザミネーション）はもちろん、今までの専門分野の学習を基に講義を発展していきます。 十分に復習し講義に臨みましょう。また、解剖生理学の知識も復習しておきましょう。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 専門分野 総論・各論 看護が見える VOL 3 フィジカルアセスメント 医学書院 メディックメディア						
評価方法	授業・課題へのとりくみ状況 筆記試験 ＊授業概要参照						
単位内訳	地域・在宅：0.1 単位、成人、老年、小児、母性：各 0.2 単位、精神：0.1 単位						

学科目 (単元)	看護臨床判断能力Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 30 時間	3 年	前期
目的	・看護師の活動の場は病院から地域へと広がり、看護師は自立した医療職者としての判断、健康状態の解釈や適切な行動が求められる。 ・これまで学習した医学の専門知識を基盤に臨床判断のプロセスである「気づき」「解釈」「反応」「省察」を学び、臨床判断の基礎的能力を養う。						
到達目標	・対象の変化に気づき、専門知識を活用して対象の健康状態を知覚的に把握する。 ・気づいた事象に対して、根拠に基づいた解釈をし、今後の予測と必要な介入を考える。 ・実践した介入による対象の反応を省察する。 ・対象の発達段階と健康状態に対する臨床判断のプロセスを実践する。						
授業計画	1. 臨床判断能力のプロセス(総論) 2. 症状(疼痛)のある患者に対する臨床判断① 3. 症状(疼痛)のある患者に対する臨床判断② 4. 帝王切開術後の患者に対する臨床判断① 5. 帝王切開術後の患者に対する臨床判断② 6. 誤嚥のある患者に対する臨床判断① 7. 誤嚥のある患者に対する臨床判断② 8. 食事摂取量が低下した患者に対する家族指導① 9. 食事摂取量が低下した患者に対する家族指導② 10. 発熱のある患者に対する臨床判断① 11. 発熱のある患者に対する臨床判断② 12. 日常生活行動の観察① 13. 日常生活行動の観察② 14. まとめ 15. 単位認定試験						
方法教育	講義・演習(シミュレーターの活用)・協同学習						
履修上の 助言	各分野における病態学、総論、方法論について、復習して授業に参加してください。 臨床判断能力Ⅰをふまえ、様々な学習内容を関連づけて考えられることを目指しましょう。 他者の意見を聞き、自分の意見も述べ、グループとして協力して学習を深めましょう。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 看護が見える VOL 3 専門分野 フィジカルアセスメント 総論・各論 医学書院 メディックメディア						
評価方法	授業・課題へのとりくみ状況 筆記試験 *授業概要参照						
単位 内訳	地域・在宅、老年、母性、精神：各 0.3 単位、成人、小児：各 0.4 単位						

学 科 目 (単元)	慢性期看護実習	講師名	学内教員	単位 (時間)	3 単位 90 時間	2 年	後 期
目 的	対象が健康障害を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質（QOL）の維持・向上に向けた看護を実践する。						
到 達 目 標	・ 症状緩和と日常生活援助を通して、対象のニーズを充足する支援を実践する。 ・ 対象の疾患や障害の受け入れと適応を支える関わりを実践する。 ・ 健康習慣・生活習慣を維持・向上するための意思決定を支援する。 ・ 継続的なセルフマネジメントを支援する。 ・ 多職種が連携して支援を行う意義と看護師の役割を述べる。 ・ 慢性期における看護の意義を理解する。						
授 業 計 画	1 実習時間 45 分 1. 病態・患者背景・治療・看護など収集した情報を日々アセスメントし、看護上の問題およびその原因を挙げる。 2. 明らかになった看護上の問題について看護計画を立案し、看護を展開する。（SOAP 記載） 3. 対象者のセルフケアに向けた支援の検討・計画立案と実施。 実践した看護を振り返る。 4. 多職種との連携（チーム医療）、看護の継続性について学ぶ。						
教 育 方 法	臨地実習						
履 修 上 の 助 言	基礎看護実践論Ⅲの目標に到達した上で履修しましょう。 慢性期にある対象のニーズを理解し、日常生活援助から自己管理に向けての保健指導まで、対象に合わせたセルフケアの獲得や維持・向上のための援助を実践します。 成人・老年の看護学総論、各方法論の授業内容と看護技術論、看護理論を復習して、実習に臨んでください。必要な記録類などは指定された期日に提出してください。						
履 修 要 件	成人看護学総論 単位修得 老年看護学総論 単位修得 看護技術論Ⅺ 2/3 以上の出席 成人看護方法論Ⅳ 履修 老年看護方法論Ⅱ 履修 基礎看護実践論Ⅰ 単位修得 基礎看護実践論Ⅱ 単位修得 基礎看護実践論Ⅲ 履修 老年看護実践論Ⅰ 履修 老年看護実践論Ⅱ 履修						
テ キ ス ト 参 考 書	看護過程の授業で使用するテキスト・参考書を参照すること 〔 成人看護方法論Ⅳ【成人期のセルフマネジメントを必要とする人の看護・事例展開】 老年看護方法論Ⅱ【老年期の看護過程の展開】 〕						
評 価 方 法	実習評価表 参照						
単 位 内 訳	成人：2 単位、老年 1 単位						

看護の統合と実践

1. 考え方

看護の統合と実践は、チーム医療の一層の推進が求められている中で、多職種連携、協働について学び、臨床判断を行う為の基礎的能力を養い、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ科目である。対象の状態、状況に応じた適切な看護を提供するための看護活動に必要なマネジメントの必要性を学ぶとともに、諸外国における保健、医療、福祉についての看護活動とその課題について学ぶ。

看護の統合と実践の科目は「臨床の場」を設定し、看護の対象となる人の状態、状況に応じて看護の専門的な知識、技術を統合し実践が行えることを目指し、講義及び実習を構成している。

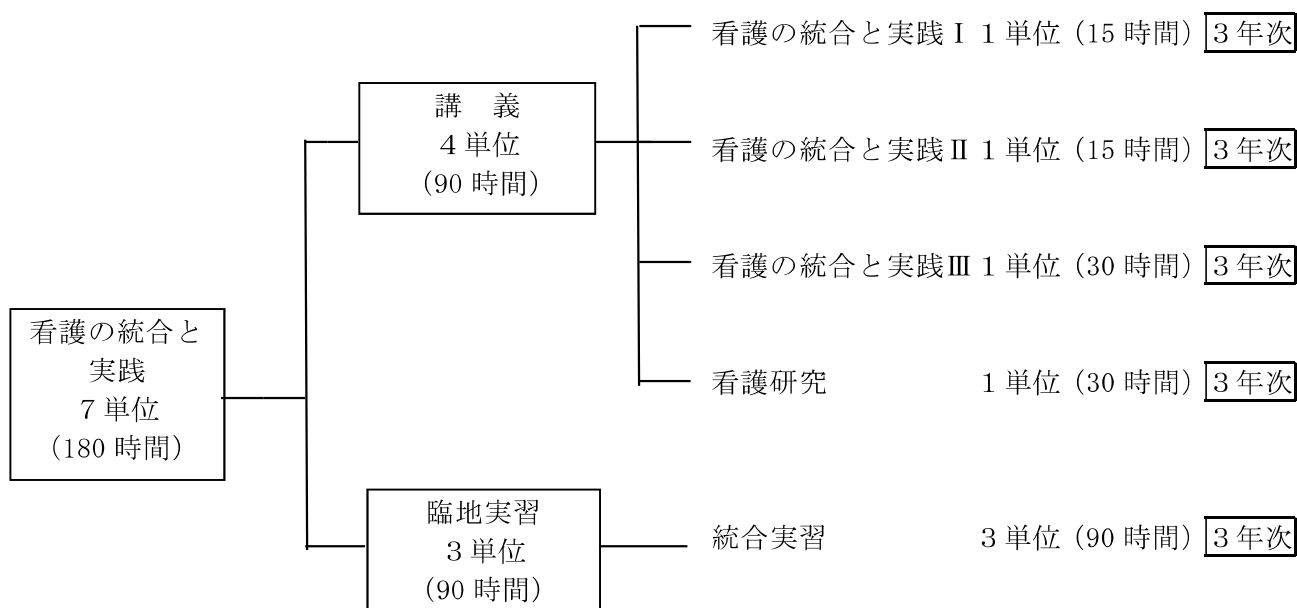
2. 目的

看護の専門的な知識・技術を統合し、対象の状態、状況に応じた安全管理や多職種との連携などを考慮しながら、より実践に即した体験を通して基礎的な看護実践力を養う。

3. 目標

- 1) チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種の連携、協働を説明する。
- 2) 多重課題における看護の臨床判断とその基礎的能力を習得する。
- 3) 看護をマネジメントできる基礎的能力を習得する。
- 4) 医療安全の基礎的能力を習得する。
- 5) 諸外国における保健、医療、福祉の課題を理解する。
- 6) 看護を多角的視点から考察し、質の高い看護を追及する姿勢を養う。
- 7) 看護技術の総合的評価をし、卒業時に到達すべき技術を習得する。

4. 構成



学科目 (単元)	看護の統合と実践 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	既習授業や臨地実習で培ってきた知識、技術を統合して「対象の状態を的確に判断する能力」「対象の状態に応じた看護ケア方法を選択する力、実践力」を身に付ける。 「OSCE：客観的能力試験」により、判断力、技術力、マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を評価する。また、リフレクションを通し自己課題を明確にする。						
到達 目標	・事例をもとに、患者の状況を理解するために必要な学習内容を説明する。 ・患者の状況をアセスメントし、看護上の問題を明らかにする。 ・アセスメントに基づき、安全、安楽、自立を考慮した看護計画を立案し実践する。 ・OSCE およびリフレクションを通して自己の課題を明確にし、課題解決方法を説明する。						
授業 計画	1. 授業オリエンテーション・事例のアセスメント（グループワーク） 2. 事例の患者のアセスメントを行い必要な看護の経過記録（1）立案 3. 演習 1：提示されたステーション課題の技術練習（実習室） 4. 演習 2：提示されたステーション課題の技術練習（実習室） 5. 客観的能力試験（OSCE）・ビデオ撮影による直後リフレクション 6. 客観的能力試験（OSCE）・ビデオ撮影による直後リフレクション 7. 演習 3：グループリフレクション 8. 単位認定試験：筆記試験（学習時間なし）						
教育 方法	複数のステーション課題を基に主体的な自己学習活動・技術演習を行う。						
履修 上の 助言	OSCE の実践に向けてこれまでの知識・技術を統合して対象の状況を判断し、より安全・安楽・自立を考慮した看護を提供できるよう自己学習・技術練習を主体的に実施してください。 OSCE の実践をもとにリフレクション及びグループリフレクションを通して自己の課題を振り返り、気付いたことを後期の実習で活かしてください。						
参考 書	病態や解剖、看護技術に関する教科書・参考書すべて						
評価 方法	OSCE（客観的能力試験）・筆記試験						

学科目 (単元)	看護の統合と実践Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	・統合実習に向けて既習の知識と技術を統合して、複数の対象を把握する。 ・マズローの基本的欲求の階層及び緊急度・重要度をもとに看護の優先順位とその根拠を考え、状況に応じた看護を実践する能力を養う。						
到達目標	・2名の受け持ち患者の優先順位の高い看護問題を把握する。 ・2名の受け持ち患者の安全・安楽・自立を踏まえた看護計画を立案する。 ・2名の受け持ち患者に必要な看護ケアと優先順位の根拠を説明する。 ・2名の受け持ち患者の状況、状態の変化を捉え、必要な看護の優先順位を検討する。 ・チームの一員としてメンバーシップ、リーダーシップに必要な行動を説明する。						
授業計画	1. 授業オリエンテーション・二事例のアセスメント、看護問題の抽出、目標設定 2. 2名の事例の看護計画立案①（個人ワーク・グループワーク） 3. 2名の事例の看護計画立案②（申し送りを受けての計画修正） 4. 2名の事例の看護計画立案③（申し送りを受けての計画修正） 5. 2名の事例の看護計画立案④（実習室での演習・リフレクションと発表） 6. 2名の事例の看護計画立案⑤（実習室での演習・リフレクションと発表） 7. 医療チームの一員としてメンバーシップ・リーダーシップ及び連携、協働に必要な行動を考える。（グループワーク） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	課題学習 演習（グループワーク・実習室での演習）						
履修上の助言	統合実習に向けて、既習学習を活かして自主的に学習を進めていきましょう。 卒業後の看護実践の場では、複数の患者を受け持ちます。常に変化する患者の状態を踏まえながら優先順位の根拠を考え、修正し必要な看護を実践していきます。その為には、医療チームの一員としての情報を共有していくことが重要になります。 医療チームの一員として連携、協働するための具体的な行動とスケジュールリングを意識していきましょう。						
テキスト 参考書	参考図書 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ						

学科目 (単元)	看護の統合と実践Ⅲ	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	3 年	前期
目的	・国内外における健康問題に対して、看護の視点から国際協力の実践と異文化看護について学習を深める。 ・社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動およびトリアージの実践を学習する。 ・看護をマネジメントする基礎的能力を養う。 ・リスクマネジメントの基礎的能力を養う。						
到達目標	・国際看護の意義を理解し、国際看護活動と看護職者に必要な視点を説明する。 ・災害時に看護が果たす役割を説明し、災害各期における看護支援活動を知る。 ・看護管理の目的と方法、看護管理システムについて説明する。 ・医療事故の事例をもとに時系列事象関連図を作成し、背後要因の分析をする。 ・医療事故の事例をもとに対策案の列挙・決定をする						
授業計画	【国際看護：6 時間】 1. 国際看護の変遷・持続可能な開発目標（SDG s） 2. 国際協力機関とその活動内容。在日外国人の看護 3. 開発協力・国際救援と看護の実践 【災害看護：8 時間】 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識：災害・災害看護の歴史および定義・災害サイクル 災害の種類と被害の特徴・災害発生時の社会の対応、個人の備え 2. 災害に関連する制度・情報伝達体制：国際的支援の仕組み・支援、体制・ボランティア活動 3. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響：地域のアセスメント・災害種類別疾患の特徴・災害時の心理・看護が果たす役割、看護支援活動心のケア（災害時の心理的回復過程） 4. トリアージ・災害支援ナース活動の机上シミュレーション 【看護マネジメント：4 時間】 1. 看護管理サービスの基礎的知識、看護管理の目的と方法、看護管理システム 2. 医療安全対策、チーム医療におけるメンバーシップ・リーダーシップ 【リスクマネジメント：10 時間】 1. リスクマネジメントと医療事故の要因分析の基礎知識 2. 要因分析の実践①（時系列事象関連図）（演習） 3. 要因分析の実践②（背後要因分析）（演習） 4. 要因分析の実践③（対策案の列挙・決定）（演習） 5. 要因分析の実践④ 発表と演習 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	【災害看護】 講義・演習 【国際看護】 講義はVTR、視聴覚教材を活用して進める。 【看護マネジメント】 講義 【リスクマネジメント】 講義、グループワーク						
履修上の 助言	先進国である日本は、保健医療の側面に対して国際的に活動することが期待されているため、国際協力に日常から興味を持って、新聞・メディアなどを通じて学んで下さい。 また、看護マネジメントとリスクマネジメントは、安全な看護を提供するために必要な知識となるため、多角的な視点で要因を分析していく考え方を学んでいきましょう。						
参考書	【国際看護】 授業プリント・系統看護学講座 看護学概論 医学書院 【災害看護】 シミュレーションで学ぶ 避難所の立ち上げから管理運営HAPPY ーエマルゴトレインシステム手法を用いてー 荘道社 監修 山崎達枝 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 【看護マネジメント】 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 【リスクマネジメント】 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（2）医療安全 メディカ出版						
評価方法	出席状況・レポート・筆記試験						

学科目 (単元)	看護研究	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	3 年	前期
目的	・看護研究の目的や意義を理解し、基礎的・実践的な研究プロセスについて学ぶ。 ・自己の看護体験を考察し、看護観を深め、看護の専門職として常に探求する姿勢を養う。						
到達目標	・看護研究の目的と意義および研究のプロセスの基礎的・実践的な内容を説明する。 ・研究における倫理的配慮とその重要性に気づく。 ・研究論文の構成を説明できる。 ・事例研究の目的と意義および研究のプロセスを説明する。 ・研究成果のまとめ方と発表について説明する。 ・論理的思考力・文章表現能力に関する自己研鑽の必要性に気づく。 ・研究課題に関連した看護実践分野を取り巻く社会的状況への関心が高まる。						
授業計画	1. 看護研究とは何か 2. 研究における倫理的配慮とは何か 3. 研究のプロセス① 4. 研究のプロセス② 5. 研究方法の特徴と展開① 6. 研究方法の特徴と展開② 7. 事例研究とは何か：看護実践から事例研究へ 8. 事例研究のプロセス～研究成果のまとめ方と発表 9. 各看護領域における事例研究① 10. 各看護領域における事例研究② 11. 各看護領域における事例研究③ 12. 各看護領域における事例研究④ 13. 各看護領域における事例研究⑤ 14. 各看護領域における事例研究⑥ 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	この科目は、単に「研究手法」を学ぶだけの授業ではありません。 研究とは何か、論文とは何か。論文の構成ってどうなっているの？などなど、初学者が抱くたくさんの疑問の答えを自分で見つけられるようになる授業です。 この科目を履修することで、「文献」の読み方を理解し、研究のオモシロさを発見できるよう。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。						
テキスト 参考書	松本孚・森田夏実(編)『新版 看護のための わかりやすいケーススタディの進め方』照林社 (そのほか、講義内容に応じて適宜紹介・資料配付します)						
評価方法	1. ディスカッション参加状況 20% 2. 提出物 30% 3. 筆記試験 50%						

学科目 (単元)	統合実習	講師名	学内教員	単位 (時間)	3単位 90 時間	3 年	後期
目的	・看護師の役割と活動の全体像を知り、医療チームの一員として多職種と連携・協働しながら複数の患者を受け持ち看護を実践する。また、看護専門職業人として自己の看護観を深める。						
到達目標	・病院組織における看護管理の実際を考察する。 (病棟管理、医療安全管理・感染管理・災害時の対応) ・チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて考察する。 ・複数の患者への看護実践をとおして、多重課題における優先順位の判断とその根拠を考え、看護を実践する。 ・医療チームの一員として、多職種と連携・協働し看護を実践する。 ・看護の専門性について考え、自己の看護観を表現する。						
授業計画	1 実習時間 45 分 1 週目：初回カンファレンス（自己課題と対策の共有） 全体オリエンテーション(病院組織・病棟管理の説明) リーダーナース・メンバーナースのシャドウイング、2名の患者の情報収集、夜間実習 テーマカンファレンス 2 週目：2名の受け持ちへの看護実践・キャリアデザインの講話 テーマカンファレンス 3 週目：2名の受け持ちへの看護実践 最終カンファレンス・評価面接 ※実習期間の中で多職種チーム活動へ参加する。						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱでの学習を活かし実習しましょう。基礎看護技術で作成した手順書を活用し、対象に必要な看護計画を修正・追加し実践してください。 必要な記録類などは指定された期日に提出して下さい。						
履修要件	看護臨床判断能力Ⅰ 履修 看護臨床判断能力Ⅱ 履修 看護の統合と実践Ⅱ 履修						
テキスト・参考書	参考図書 系統看護学講座 看護技術論Ⅰ 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院 その他、受け持ち患者を理解し、看護を考えるために必要な教科書・参考書						
評価方法	実習評価表 参照						